






大田原市「市の鳥」にノミネートされた鳥たち

大田原市「市の鳥」にノミネートされた5つの鳥は、市の鳥選考委員会において、以下の選考方針に基づき、大田原市に生息する主な鳥30種類の中から候補として選考されております。

1. 市の風土、自然などとかかわりの深いもの
2. 市民に愛され、親しまれるもの
⇒ 「留鳥・渡り鳥を問わず大田原に生息する鳥（家禽類（鶏など）またはペットではないもの）」
3. 市のシンボルとして良好なイメージまたは伝達力を有するもの ⇒ 「有害鳥獣捕獲の対象でないもの」、「市のイメージを悪くしないもの」

候補番号	指定候補	説明	選考理由/トピックス等
No.1	 うぐいす	スズメ目ウグイス科ウグイス属の1種である。「ホーホケキョ」と大きな声でさえずる。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の山林でも笹の多い林や藪に生息し、春の訪れを告げる鳥とされている。 ・旧黒羽町の鳥として指定されていた。 ・日本三鳴鳥の1つとされている。 ・「うぐいす色」と言われて思い浮かべるのは「うぐいす餅」などの色彩ですが、実際のうぐいすの羽色は緑よりも暗緑茶色である。
No.2	 きつつき	鳥綱キツキ目の科である。キツキ（啄木鳥）あるいは古語でケラ（啄木鳥）と呼ばれる。	<ul style="list-style-type: none"> ・山林に多く生息していて枯木をつつく音に心が癒される。 ・芭蕉の「奥の細道」に雲巖寺で詠まれた句に「啄木鳥も 庵は破らず 夏木立」があり、また雲巖寺に句碑がある。併せて、雲巖寺の観光面について後押しを期待したい。 ・子供から大人まで鳥の名前と鳥のイメージが理解できる。
No.3	 ひばり	スズメ目ヒバリ科ヒバリ属に分類される鳥類。春を告げる鳥として昔から親しまれている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の農耕地に生息している、春の訪れを告げる鳥とされている。 ・旧湯津上村の鳥として指定されていた。 ・那須与一の弓の修練の逸話（※）に登場する。 <p>※那須与一が、弓の稽古にひばりを射ていたところ、通りがかりの旅の法師から無益な殺生を避けるため、ひばりの蹴爪を狙って射るように諭され、ひばりの蹴爪を射て弓の修練をした。</p>
No.4	 ほととぎす	カッコウ目・カッコウ科に分類される鳥類の一種。特徴的な鳴き声とウグイスなどに托卵する習性で知られている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の里地でよく見られ、歌詠鳥（うたよみどり）として親しみがある。 ・芭蕉の「奥の細道」には黒羽から殺生石への道中で詠まれたとされる句に「野を横に馬牽きむけよ ほととぎす」があり、黒羽の常念寺に句碑がある。 ・新緑の森林と初夏の田園に響く愛らしい鳴き声をよく耳にする。 ・初音が田植え時期のため、農事をつかさどる鳥とされている。
No.5	 やませみ	ブッポウソウ目カワセミ科に分類される鳥類の1種である。山地の溪流に生息するカワセミの仲間である。	<ul style="list-style-type: none"> ・那珂川や箒川の崖地に生息し、3月から8月ごろ崖に横穴を掘って営巣し、ヒナを育てる。 ・日本のカワセミの中では一番大きい鳥である。 ・平成30年10月3日に「黒羽のヤマセミを守る会」、「福原のヤマセミを守る会」が多数の署名と合わせ、市の鳥に指定の要望が市に提出された。